

神奈川県自然環境保全センター  
 かながわパークレンジャー  
 TEL 046-248-6682

## 「丹沢・登山道巡視報告」

ヤマビル対策のための落ち葉掻き隊を3箇所で行いましたので、報告します。

丹沢で問題になっているヤマビル。冬は落ち葉の下で冬眠しており、落ち葉を取り除くと、翌春以降のヤマビルの発生数が減ることが、各地での実験で確かめられています。

そこで、神奈川県自然公園指導員さんのボランティア協力をいただき、ヤマビルが特に多い清川村の登山道で、2年前から「落ち葉掻き隊」を実施しています。

昨年は落ち葉を掻くことによって登山道の洗堀を進めたり、希少植物の生育にも悪影響を与えるという問題点も指摘されましたので、今回は登山道入口200～300mは登山道とその脇の落ち葉を左右1mずつ丁寧に掃き、それより上部はある程度自然の状態を保ち、獣道が横切っているところ、鹿柵が破れているところなどを念入りに行いました。

- ・1月18日(日)：鳥居原園地～南山、宮ヶ瀬春ノ木丸
- ・1月21日(水)：清川村役場前～煤ヶ谷登山口～物見峠



落ち葉掻き隊の様子(南山)

### 宮ヶ瀬ビジターセンター

【〒243-0111 清川村宮ヶ瀬940-15  
 TEL 046-288-1373 FAX 046-288-1162】

#### ●自然教室「春を探しにハイキング ～南山に行く～」

宮ヶ瀬湖の北側にある南山(標高差約240m)に登ります。山歩きや自然観察を楽しみながら、春の訪れを感じましょう!

実施日：平成21年 3月20日(金・祝)

時間：9:00～15:00頃

募集人数：小学生以上30名(小学生は保護者同伴)

\*応募者多数の場合は抽選

集合：鳥居原ふれあいの館  
 (相模原市津久井町鳥屋)

解散：県立あいかわ公園(愛川町)

参加費：1人300円(資料代、保険代)

締切：2月26日(木)

### 県立ビジターセンター もよおし案内

### 秦野ビジターセンター

【〒259-1304 秦野市堀山下1513  
 TEL 0463-87-9300 FAX 0463-87-9311】

#### ●子ども自然教室「鳥の巣を作ろう！」

働き者の鳥の父さん・母さんを見習って、鳥の巣作りにチャレンジしよう!

実施日：平成21年 3月21日(土)

時間：9:30～12:30頃

募集人数：30名(4～8才とその保護者)  
 \*応募者多数の場合は抽選

参加費：1人300円(資料代、保険代)

締切：3月6日(金)



#### \*\* 自然教室申込み方法 \*\*

往復はがきFAX(返信FAX番号明記)に、行事名、参加者全員の氏名、年齢、性別、住所、電話番号を明記して、各ビジターセンターへ締切日必着でお送りください。

(詳しくは返信でお知らせします)

編集・発行 財団法人 神奈川県公園協会自然公園課

〒231-0027横浜市中区扇町3-8-8関内ファーストビル6階

TEL: 045-651-0931(都市公園課・自然公園課) FAX: 045-651-0932

自然公園課: sizenkouen@kanagawa-park.or.jp

ホームページ http://www.kanagawa-park.or.jp/

この通信を上記のホームページで見ることが出来ます。

後援：丹沢大山自然再生委員会

2009

2月号  
 No.65

～自然公園から季節のたよりをお届けします～

# 神奈川県自然公園だより

丹沢大山国定公園 県立丹沢大山自然公園 県立陣馬相模湖自然公園 富士箱根伊豆国立公園

### 陣馬自然公園センター

藤野町佐野川1659-3  
 TEL 0426-87-5270



陣馬山山頂から見る厳冬の連行峯(1,013m)

陣馬山から和田峠を下る

## 「厳冬の陣馬山」

朝晩の冷え込みも厳しくなりセンターの温度計は氷点下を指す日が多くなりました。外の水道は終日凍った状態が続き、朝の路面は凍結した日が続いています。

1月9日、今年初めての雪が降り積もりました。センター周辺で5cm、陣馬山頂では15cm、生藤山は20cmの積雪となりました。週末にはたくさんの小グループの登山者が訪れ、雪の陣馬山・生藤山への登山を楽しみ下山していきました。登山道はカチカチに踏み固められた状態でアイゼンを忘れた方々は転倒しながら下山してきたとのことでした。

1月18日 和田地区周辺で今年一年の山での無事を「山の神」に祈願する神事が行われました。林業などで山に入る住民だけでなく、登山客もケガがない一年であってほしいとお話がありました。また、この日の朝、「佐野川鎌沢地区」に大きなオスジカ1頭が出没しました。昨年12月17日にもセンター前の畑に大きなオスジカ1頭が出没しています。今まで陣馬周辺では、あまり見かけることはありませんでした。

1月24日、突然降りだした雪でセンター周辺の冬枯れの山が雪化粧となりました。(荒井)



## 丹沢湖ビジターセンター

足柄上郡山北町玄倉515  
TEL 0465-78-3888

### 「たまご・まゆ・め」

丹沢湖では、厳しい寒さと春の陽気がいたりきたりする日が続いています。

春が待ち遠しい方も冬を楽しんでいる方も、いろいろな生きものの春を待つ様子を見に来てみませんか？

カマキリの仲間は秋に泡に包んだ卵を産み、冬の間は固くなった泡が卵を守っています。この中にはたくさんの卵が入っていて、5月頃になると一斉に幼虫が現れます。草や木の低い所に産み付けることが多いようですが、地上から3,3mもの高さの枝先でオオカマキリの卵も見つかっています。

イラガというガの仲間は、卵形で白黒の繭を作ります。繭と言っても触ると固く、この中で過ごす間に成虫の体となり6月頃に出てきます。



オオカマキリの卵のう



イラガのまゆ

早春に花を咲かせる植物も準備を始めています。

ビジターセンターでは、フキノトウの芽が土の中から顔を出し始めました。

ここでご紹介したのは一部ですが、他にも様々な形や色をした「たまご・まゆ・め」が、私たちの目を楽しませてくれます。ぜひご覧下さい。

(櫛谷)



フキノトウ

## 秦野ビジターセンター

秦野市堀山下1513  
TEL 0463-87-9300

### 「少しずつ春がやってきました！」

春のような陽気となった1月19日、秦野ビジターセンターの近くにある池でヤマアカガエルが産卵しました。卵の塊の数はおよそ30個。1匹のメスが産む卵塊は1つなので、メスだけでも約30匹、オスも同じくらいと仮定すると、約60匹のカエルたちが集まったようです。

冬の間、森林の土の中などで冬眠しているアカガエルの仲間は、気温があがり、雨が降ると目を覚まし、いっせいに水辺へと集まります。

そして甘い(?)ともとれるオスの鳴き声にメスが誘われ、ペア(“抱接(ほうせつ)”という)になって産卵します。ときには抱接中のペアに、別のオスがさらに抱きつくことも…。

自分の遺伝子を残すための“生”の戦いなのでしょう…。

産卵が終わるとカエルたちは再び休眠をして春を待ちます。普段は森林などで虫などを食べて生活し、産卵のときに水辺へとやってくるヤマアカガエルにとっては、そのどちらの環境も大切です。また、そのカエルたちをヘビや鳥、ケモノたちが食べて生きています。様々な環境が様々な命を支えているのです。

これから少しずつ春が近づくにつれ、ヒキガエル、タゴガエルたちの産卵も行われます。カエルたちの卵塊は林道脇や沢の近くの水溜まりなどでも見つかることがありますので、登山やハイキングの途中に、ぜひ探してみてください!! (鈴木)



抱接



抱接中のペアに近づくオス



卵塊

## 箱根ビジターセンター

足柄下郡箱根元箱根旧礼場164  
TEL 0460-84-9981

### 「冬の芸術をお楽しみください」

新たなる2009年の訪れ…この年末年始、箱根は快晴の暖かな日がつづきました。

これほど穏やかな年末年始は何年ぶりでしょうか。

しかし、さすがにお正月を過ぎると、本格的な寒さがやってきました。

風が強く寒い日には、ビジターセンターの東にそびえる冠ヶ岳をごらんください。大気中の水分が強風と寒気で樹木に凍りついた“霧氷”におおわれた姿が見られることでしょう。白銀のその様は、美しさよりも恐ろしさを感じるほどです。

また、冬晴れの朝は芦ノ湖にも目を向けてみましょう。温かい水温と、冷え込んだ大気が、湖面に霧を発生させます。

朝日の中、芦ノ湖から霧が湯気のように立ち上る光景は、神々しさを感じさせます。

厳しい冬が繰り広げる自然の芸術、3月頃まで見られるでしょう(但し、非常に寒い日に限ります)。(加藤)



霧立ち上る芦ノ湖



霧氷の冠ヶ岳



ベニマシコ

気温が氷点下になるような日でも、熱心に宮ヶ瀬を訪れる人々がいます。

この時期にしか出会えない野鳥に会うために。

遠くはシベリアなどから、そして山の高いところから、冬を過ごすためにやってくる鳥たち。

今回は、人気もの2種をご紹介します。

○冬のアイドル「ベニマシコ」

オスの淡い紅色をした姿が人気の秘密。メスは褐色。林縁で「フィホ」などのささやき声がしたら探してみてください。小さな草の実をついばんでいるかもしれません。

○ひょうきんもの? 「ツグミ」

おもな出没ポイントは草地と林。草地では、「だるまさんが転んだ」の要領で歩いては立ち止まり、土中の昆虫などを探しています。林では、木の枝に止まり、木の実などをついばむ姿を見つけることができるかもしれません。

ツグミは4月下旬頃まで残っていますが、ベニマシコはひと月早く3月下旬にはいなくなってしまいます。限られた期間にしか出会えない鳥たちがどんなふうに通っているのか、観察していると寒さも忘れてしまいます。暖かい服装をして、会いに出かけてみてはいかがでしょうか。路面は凍結していることもあるので、ご注意ください。(長澤)



ツグミ